

11. コア・コンピテンス教育委員会

高木 康（委員長，昭和大学）

卒業時のコンピテンス（コンピテンシー）の提示が大学教育で求められ，医学部・医科大学ではHP上にコンピテンスが掲示され始めている．コンピテンスは成果基盤型教育（OBE：outcome based education）の学習アウトカムであり，従来の目標基盤型教育とは一線を画するとの考えがある．そして，前者がプロダクト重視であるのに対して後者はプロセス重視な教育である．欧米ではこのOBEが普及し，各国の医学教育ではコア・コンピテンスとも考えられるコンピテンスが提案されている．わが国でもOBE，コンピテンス（学習アウトカム）が一部の医学部・医科大学で導入され始めており，自学のコンピテンスを設定しているが，わが国としてのコンピテンスは提示されていない．

医師像としては，平成22年改訂版モデル・コア・カリキュラムに「医師の資質」として，①医師としての職責，②患者中心の視点，③コミュニケーション能力，④チーム医療，⑤総合的診

療能力，⑥地域医療，⑦医学研究への志向，⑧自己研鑽，が提言されている．これをコア・コンピテンスと考えることも可能であるが，その検証は必要であろう．コア・コンピテンス教育委員会では，この平成22年改訂版の「医師の資質」を検討するとともに，全国医学部・医科大学でのOBEの導入状況，OBEの問題点，目標基盤型教育との比較，さらにはディプロマポリシーとの違いなどについて調査を行い，教育カリキュラムの実態から，コア・コンピテンス，OBEについての提言を行う．わが国ではすでにモデル・コア・カリキュラムが設定され，医学部・医科大学のカリキュラムの基盤となっており，これとの整合性も考慮する必要がある．

副委員長：瀬尾宏美，委員：石井誠一，泉美貴，大久保由美子，小田康友，長谷川仁志，藤倉輝道，藤本真一

12. 国家試験・共用試験委員会

田邊 政裕（委員長・千葉大学大学院医学研究院）

わが国の医師国家試験と共用試験について現状の課題と今後の活動について検討した．

1. 現状の課題

(1) 医師国家試験

- 担当部局の問題（卒前教育：文科省，国家試験：厚労省）
- 技能試験をどのように取り入れるか．

国家試験 OSCE が韓国に加えて台湾でも導入されている．

- 卒前医学教育への影響
- 出題内容

500題/3日間の試験問題の質と量

- 卒後研修を開始するのに必要な最小限の内容（minimum essential requirement, MER）となっているか．